

2003年(平成15年)啓発誌
■編集/奈良市人権教育・啓発推進本部
■発行/奈良市人権啓発センター
〒630-8108 奈良市佐保台西町114番地の3
■電話 0742-72-1510

Human Rights
Nara



できることから行動しよう



奈良市

くらしのなかに人権を

みんなのでひらこころの扉



高度情報化社会の中、私たちの個人情報がたくさん流出し、もうひとりの『私』ができてしまっています。

その中には、知られたくない事や差別につながるような情報もあり、自分が知らないあいだに誰かに渡ってしまう……。

あなたの個人情報は密かに、しかも確実に狙われています。

そして、このような状況とともに、まだいわれのない迷信や因習・偏見が、社会的差別のもととなっている現状があります。

あなたの何気ない日常の一言や行動が、相手の人権を侵していませんか？

■ プライバシー

自分の情報をいつ、どのように、またどの程度、他人に伝えるかを自ら決定できる権利、すなわち自己の情報をコントロールできる権利のことです。

だから、個人に関する情報は、どんなものでもその人自身の許可なしに勝手に使ったり教えたりしてはいけません。

■ ジェンダー

ジェンダーとは、社会的・文化的・心理的に作り上げられた性差のことを言います。

いわゆる「女性らしさ」「男性らしさ」などと形容される日常での言葉づかいや態度、また、男は仕事、女は家庭といった性別で役割分担してしまう考え方もジェンダーにとらわれたものです。

■ 差別と区別

区別とは、それぞれの個性や能力等の『違いによって分ける』ことです。

しかし、差別は「出身地」「性別」「民族」などと言った、『本人の努力によってどうすることも出来ない事柄』で、上下の値打ちをつけ、自由や権利を無視し侵害することです。

■ 偏見

合理的根拠がない、偏った考え方です。たとえば、世間体意識や慣習・迷信によって差別意識をもつことを言います。

正しい知識と理解がお互いを尊重しあえる心を作るのです。

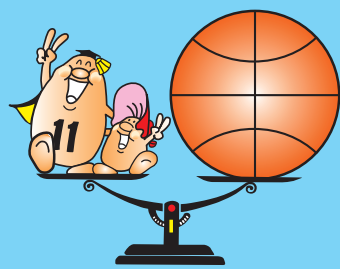


貴方のプライバシーは 大丈夫ですか？

これは便利!! 電話番号を告げるだけで住所や氏名がすぐに相手に判ってもらえる。

確かにスピーディーで便利ですが、電話番号ひとつで簡単に特定されるシステムを手放して歓迎してよいのでしょうか？

インターネットや携帯電話などが普及し、ますます情報化する社会の中で他人の情報を詮索したり、悪用したりしないのはもちろんですが、自分のプライバシーは自分で守りましょう。



本来必要とされる項目以外の 個人情報を公開しないよう 心がけよう



■突然に送られてくる知らない企業からのダイレクトメールはなぜ？



■個人情報は様々な所で行き来しています。



■会員登録やアンケート調査で必要以上の情報を知らないうちに漏らしていませんか？



■貴方はカードの明細書を不用意に捨てていませんか？

男女共同参画社会は 【自立と支援がキーワード】

「女性の自立」……それは女性がひとりで
頑張っていくことと思いませんか？



人が互いに支えあって生活することで、社会は成り立っています。その中での「自立」は、「支援」がなければあり得ません。男女ともお互いの「自立」を「支援」する事が大切です。男性の「家庭での自立」は女性の支援が大きな味方となるように…。「女性の自立」も男性の支援が必要なのです。



男女ともお互いの「自立」を「支援」することが大切。



人生の選択を自分らしく。



仕事と家事・育児の両立。

「男らしく」「女らしく」から 「自分らしく」の社会へ

育児や介護を社会が支援する。それは、女性の仕事と決めつけずに家族で支え合うことから始まります。

教育の場においては、ジェンダーにとらわれない正しい学習をし、一人ひとりが個性を発揮できることが大切です。

そして、「女性ならではの」「男性ならではの」を生かしながら、お互いを理解し合える社会をめざしましょう。



子どもの「躰け」が
押し付けになったり
心を知らず知らずに
傷つけていませんか



大人と子どもは人として平等であり、
大人が子どもを尊重するのは当然です。
しかし、社会にはお互いが快適に暮す
ためのルールがあります。そのルール
を教えるには「躰け」が必要となります。
ただ、この「躰け」が親の都合で「叱る」
や「エゴの押し付け」に変わっていない
でしょうか。



自己主張は成長の証し
それを見守り、正しく導くのは
大人たちです。



■せっかくだる気を起こしている
子どもに「ストップ!」をかけて
いませんか。



■大人の考えで自立心をそこなう
ような、干渉をしていませんか。



■努力している過程をほめてあげ
ましょう。



エイズやハンセン病、 O157……「偏見のない心」

願って病に侵される人は誰もいません。
避けられない事実に、いかにして共存し暮らしていけるかを見つけること、いつも正しい知識をもって受け入れる心が大切です。

差別や偏見で多くの患者さん達が、PTSD（心的外傷後ストレス障害）に苦しんでいる事実をあなたはご存知でしょうか。



国と国とのかけ橋は あなたの笑顔でつなげます。

様々な国の人との交流が生活の中でますます身近になり、お国柄や言葉、歴史に触れる機会が多くなりました。異文化を尊重し理解するには、私たちに何ができるのかを考えてみましょう。

また、ホームステイや簡単な道案内、観光ガイドの手助け等にも積極的に取り組んでみませんか。

海外からやって来るスポーツ選手を歓迎するように、人種・民族に対する偏見や差別をなくし、異文化交流などで先人たちが残してきた世界遺産のまちとして誇れる「奈良」にしていきたいと思います。

